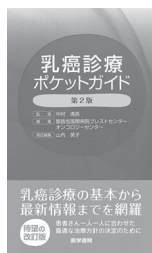


書評

[評者]
池田 正
帝京大学主任教授・外科学



乳癌診療ポケットガイド 第2版

中村清吾 監修
聖路加国際病院プレストセンター・
オンコロジーセンター 編
山内英子 責任編集

●B6変型・頁264 2014年
定価：本体3,600円＋税
[ISBN978-4-260-01950-7]医学書院刊

『乳癌診療ポケットガイド 第2版』が発刊された。山内英子先生編集のもと、聖路加国際病院のプレストセンター・オンコロジーセンターが総力を挙げて改訂された。乳癌の分野では医学情報が日進月歩であるため、待ちに待った改訂といえる。

本書の特徴は、①乳癌診療の基本から最新情報までコンパクトにまとめていること、②図表を多用しており、かつ2色刷のため非常に見やすいこと、③看護の面から見た情報も記載していること、④遺伝性乳癌、多遺伝子アッセイ、社会的サポートなどトピックについても紙面を割いていること、⑤薬物療法に関してはレジメンの量まで記載していることなどである。ことに、ポケットに入るような大きさにもかかわらず、レジメンが細かく書いてあるなど、臨床の現場を意識して構成しているため実臨床で非常に使いやすいものに仕上がっている。若い医師が臨床現場でオーダーを確認するのに持ってこいである。また、乳癌は近年増加が著しく、臨床でよく遭遇する疾患である一方、診断治療

の変化が著しい癌でもあり、専門外の先生にとっては苦手意識があるかもしれない。このような先生にとってもレジメンの根拠になる臨床試験も挙げており、理解しやすいと思う。本書を読んでさらに詳しい情報が欲しいと思われる方は、『乳癌診療ガイドライン』などを一緒に読まれるとさらに理解が深まってよいだろう。

本書の内容から見てわかることは、編者も序で述べているが、チーム医療を推進するに当たり全員が共通の理解の下にディスカッションすることが重要だということである。その目的のために構成された本書は乳癌に携わる方々を対象に、基盤となる情報を過不足なく網羅している。若手医師、看護師ほか乳癌診療に関わるメディカルスタッフにお薦めであり、ポリクリ学生にも参考となるであろう。ぜひ日常臨床でポケットに入れて持ち歩き、わからないことをすぐに確認するとともに、カンサーボードなどでも活用されることをお薦めする。